平成２８年度　第３回五條市総合教育会議議事録

日時：平成２９年２月２３日（木）　午後４時３０分から

場所：五條市役所　議会委員会室

出席者：・太田好紀市長
・堀内伸起教育長
・寒川英明教育委員会委員
・大西修二教育委員会委員
・井本誓晃教育委員会委員
・井田栄子教育委員会委員

【事務局等】
・松井教育部長
・稲次あんしん福祉部長
・福塚市長公室長
・青木教育総務課長
・福塚学校教育課長
・角谷生涯学習課長
・山本文化財課長
・上垣子どもサポートセンター所長
・水本児童福祉課長
・中本企画政策課長

１　開会（議事進行　福塚市長公室長）

２　太田市長挨拶

本日、平成２８年度 第３回 五條市総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様には、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様には、平素から本市の教育行政の推進にご尽力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げますとともに、教育を取り巻く様々な問題や課題解決に向けての取組を進めていただいておりますことに敬意を表する次第であります。

皆様には、五條市、さらには「日本の未来」を担う子ども達のために、一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

さて、未来に引き継ぐ「まちづくり」のために、人材育成は欠かせません。
教育サミットでの知事の挨拶にもありましたが、教育は未来への投資ともいわれます。
次の世代にバトンタッチするために何をすべきか非常に重要であります。
見える部分の投資と見えない部分の投資など、皆様にいろいろな議論をしていただいて子どもたちの環境を整えるよう頑張って参りたいと思います。
本日の会議は、「五條市いじめ防止基本方針について」報告を予定しています。
子どもの健やかな成長を著しく阻害する「いじめ」問題でありますが、全国各地において後を絶たないのが現状であります。
皆様の忌憚のないご意見を出していただいて意義ある会議にすることをお願い致しまして挨拶とさせていただきます。

３　報告事項

報告事項の前に福塚市長公室長から

・今回の会議の議事録への署名は、井本委員にお願いすることとなっている旨説明があった。

○　五條市いじめ防止基本方針について

【報告】上垣子どもサポートセンター所長

五條市いじめ防止基本方針について説明

【補足】堀内教育長

学校におけるいじめ対策の組織、基本方針は既にできている。今回、五條市としての基本方針を作る。平成２５年１２月に五條市いじめ連絡対策協議会ができている。今後、教育委員会としては、いじめ対策委員会を設けていく。
そして重大事故が起きた場合の第三者委員会の設置をどうするかが最終段階になる。県内の市町村でいじめ基本方針ができているところはまだ少なく五條市は早いほうであるが、何も起きていないからよいのではなく、早くするべきである。

【補足】松井教育部長

五條市いじめ対策委員会は条例設置を予定している。時期はできるだけ早くと考えており、６月議会へ上程したいと思っている。

【質問】太田市長

その条例案はどこでつくるのか？

【回答】松井教育部長
　教育委員会で作ります。

【意見】太田市長
　いじめ問題の一番の原因は何か。子どもが生まれたときはみな平等である。それなのになぜいじめができるのか。
　一番大事なのは家庭環境。家庭環境がちゃんとならない限りいじめはなくならないと思う。学校や教育委員会がいくら対策しても家庭の理解がないといじめはなくならない。いかに家庭と連携するかが大事。色々なことを踏まえて五條市としてのオリジナリティを考えて保護者との連携をもっと密にしない限り根本的な解決はしないのではないか。もっと掘り下げた議論をしなければならない。学校適正化、幼保の一体化もそうであるが、今きちんとした形を作らなければならない。
　国がやっているから、県がやっているからと真似をしても意味がない。五條市は五條市でその地域性、慣行などを踏まえてすすめていくことも大事である。

【意見】堀内教育長
　昨日の教育サミットでの中で、いじめについて次の三つの点に触れられていた。
①重大事件は３００件のうち５０件のうち１件の割合であるということ。疑わしいものが３００件あれば、そのうち５０件はしっかり考察をしないといけない案件、そのうち１件くらいが重大事件であり、それが起きたときにどのような対応ができるのかを考えることが必要であること
②対策だけではだめであり、心の問題をどうするかが重要であること。
③講師の先生も仰っていたが、幼稚園・保育所と小学校の接続のときにそういう人間関係ができるのではないかということ。

【意見】井本委員
　非常に難しい問題。市長がおっしゃったように根本は家庭教育。そもそもの家庭教育がネグレクトや親子のコミュニケーションがうまくいっていないなどの問題がある。いじめが起こった時に、うちの子はいじめをしていないと親が言ったときにそれ以上つっこめない。
　今は、親と先生のコミュニケーションの取り方も難しい。いじめた側の親、いじめられた側の親、先生のトライアングルになって先生が押しつぶされてしまう。その解決をどうやっていくのか難しい。そういう意味で事前に防ぐこと

が重要である。

【意見】寒川委員
　いじめられてもそれをいじめと受け取っているのか。それを「いじめ」としてとらえる子もとらえない子もいる。

【意見】井本委員
　いじめをする側とされる側の受け取り方の違いは、家庭環境の違いもある。

【意見】太田市長
　自分たちが子供のころは、先生も親も怖かった。今は親も先生も怖くない。時代、立場が変わった。先生も保護者から色々いわれるので逃げ腰になっているのではないか。もう少し強気でいってくれればとも思う。

【意見】井本委員
　いじめ対策委員会は内容が３つに別れるのではないか。いじめの予防、早期発見につなげる現状の調査、いじめが発生した後の対策など役柄が分かれる。１人の人でそれらを賄うのは厳しいのではないか。

【意見】大西委員
　この問題は、大津の事件から言われており、いじめが発生してからの対策というのが言われている。しかし、先ほどから言われているように予防という観点を五條市として大事にしていけばいいのではないか。
　生徒がいじめられているのか、ふざけているのか、その線引きは難しい。

【意見】井本委員
　ライン、携帯でのいじめというのがある。先生にも親にもわからない。友達関係で疎外されていてもそれがわからないといういじめがある。
　携帯の中でのいじめが主流になってきて、学校でみてわかるいじめは少なくなってきているのではないか。どのように対処するのか難しい。

【意見】井田委員
　いじめの原因は広範囲にわたる。家庭環境は変えられない、介入できないので幼稚園、保育所で自分が嫌なことは人にはしないなどを集団生活の中で教えることなど具体的な内容が重要。それを繋げて小学校、中学校など学校教育の中で子どもたちに示していかないといけない。やはり予防が大事。

【意見】堀内教育長
　五條市の場合は、学校は比較的良くやっている。ただ良くやっているからいじめが起こらないのではないという観点は、しっかり持つ必要がある。個人のチェックシートの採用やアンガーマネジメントの研修も先行して行っている。
　先生方の資質をもっともっと磨かないといけない。

【意見】太田市長
　学校適正化の答申の原点にいじめの防止も含んでいると思う。３０人学級で２クラス以上というのは子どもの異動がある。クラブ活動などで集団生活の基本を学ぶなど、いじめ防止の観点をふまえての学校適正化というのも大事である。

【意見】井田委員
　学校適正化について、統合される側の生徒がいじめられないか不安という声がある。学校適正化においていじめ対策もきちんと考慮していますというのも重要ではないか。

【意見】太田市長
　委員の皆さんの意見をまとめると、いじめの防止という観点が重要ということになる。いじめが発生してからの対策だけではなく、予防の形を作るということを検討してはどうか。
　いじめ対策委員会にそういう観点を盛り込めないのであれば、別の組織を作ることも検討してはどうか。国や県がやるからではなく、五條市は五條市でそれ以上のレベルで考えてはどうか。

【意見】松井教育部長
　学校適正化の説明会の中でかつていじめを受けていたが、クラス替えでたすかったという意見もあった。

【意見】堀内教育長
　確かに２クラスある学校はよかった。いじめまで行かなくても発言が少ない子どもなどをクラス替えで助けられる。単学級ではそれができず、親も交えての議論が必要となる。いじめ対策と適正化とが大きな関連をもっているという観点も重要である。

４　その他

〇学校適正化の進捗について

【説明】青木教育総務課長

学校適正化の進捗について説明。

・１月３０日から意見交換会を開催中。本日現在で１０回中７回開催、延べ１９９名参加

・昨年１１月に開催した市民説明会で出た意見を分析する中で直接の受益者である保護者の皆様にさらに意見を聞いていく必要があると考え実施。

・市民説明会で出た意見を集約し、スケジュールについて、小規模校について、小中一貫校について、スクールバスについての４点について教育委員会から説明し、その後フリーの意見交換を行った。

・スケジュールについては、性急だという意見があるので予定を平成２９年度から１年間のばしていくと説明した。

【意見】太田市長

学校適正化について、今説明があったがそう簡単にはいかないが、やらなければならない。充分な説明、理解を得る努力が必要である。

そのため余裕をもったスケジュール進めていってほしい。色々と問題はあるが、子どもらの将来のためには、学校適正化が必要だという認識で進めて参りたい。

何かすれば必ず問題提起される。それらの意見や批判は甘んじて受けなければならない。しかし、２０年後３０年後にあの時学校適正化をしてよかったなと言えれば良いのでないか。皆それぞれ観点が違う。しかし理論をきちっと持っていけば進めていけるのではないか。子どもたちのために粘り強くやっていくしかない。

学校とまちづくりは一体のものである。最終的には総合的判断がいる。しかし、子どものために何がベストなのか原点を忘れずに。

学校適正化について今後のスケジュールはどうなっているか。

【説明】松井教育部長

３月６日で意見交換会の２回目が終わる。今後も違った形で意見交換会を続けていき、その後来年度末に最終案を策定したい。

【意見】太田市長

もともとは、もう少し早いスケジュールであったと思う。それをもうすこし理解を得るために努力していきたいという思いで時間を延長したということだと思う。

それと急に話がでてきたという市民の声がある。実際には、５年前から取り組んでいるということをきちんとＰＲすべき。

【意見】堀内教育長
学校適正化に関する広報をもっと早くからするべきであったかもしれない。
６月頃にこういう形に変わるということをわかりやすく説明するということを考えている。デメリットばかり言われていてメリットが伝わっていない。
いじめ問題との関係などメリットを広報したい。

【意見】太田市長
メリットデメリットというと子どものメリットデメリットだけでなく、地域のメリットデメリットの話も出てくる。それらをきちんと整理していかなければならない。地域がさびれていくという意見が多い。

【意見】井田委員
認定こども園も同じことにならないように平行して考えて行かなければならない。認定こども園のときにまたかと言われる。

【説明】太田市長
実際には、平行してずっと進めていた。今年、機構改革で整理して早くすすめるようにしたい。本来であれば、幼保一体化の方を先行してすすめるのがよかったが、そのあたりずれが出てきている。スピード感をだしてやれるように４月から機構改革をやろうと考えています。

５　閉会　堀内教育長挨拶
本日は大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございました。いろいろなご意見をいただきましたが、明るい見通しをもちながら展望しながらこれからやっていきたい。市長からも力強いお言葉をいただきました。チーム五條としてみんなで力をあわせてやっていきたいと思います。
本日はどうもありがとうございました。